令和6年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	特22	学校名	県立協和特別支援学校										学校長名	大竹 幸子				
教頭名	松本 牧子					教頭名	鈴木 英夫					事務(室)長名	小泉 努					
教職員数	教諭	88	養護教諭	1	常勤講師	18	非常勤講師	3	実習助手	1	寄宿舎指導員	0	事務職員	3	技術職員等	11	計	125
幼児・児童・生徒数	部	1年(3歳児)		2年(4歳児)		3年(5歳児)		4年		5年		6年		合計		合計		
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	クラス数		
	幼稚部																	
	小学部	9	6	11	6	10	5	15	3	16	2	12	5	73	27	27		
	中学部	12	5	8	4	16	8							36	17	14		
	高等部	21	11	13	7	10	7							44	25	12		
	専攻科																	
													計	153	69	222 53		

2 目指す学校像

一人一人の笑顔があふれる活力ある学校『チーム協和』づくり

◆安心安全で助け合える学校

◆主体性を育む学校

◆地域と連携する学校

3 現状分析と課題(数量的な分析を含む)

項目	現状分析	課題
学校経営	・日常からの環境整備と安全対策への取り組みを持続させ、防災教育についても継続的に取り組みを行った。 ・地域との連携体制の構築を図り、地域全体の特別支援教育に関する理解を深めていく取り組みを行った。 ・職員の働き方改革の推進を行った。	・安心安全な教育活動の実践のため、今後も感染症対策の意識を継続させ、「ヒヤリハット」の事例検証をすすめたり、事故対応マニュアル等の見直しも検討していく必要がある。 ・今年度も学区内の幼児児童生徒それぞれが、適切な学びの場で成長できるよう、地域の関係機関と連携し、新しい「地域との協働」や「PTA活動」について検討し、児童生徒の育成のための関係づくりに取り組んでいく必要がある。 ・校務のさらなるDX化を推進し、授業改善に重点をおける環境を整備していく。

学習指導	・ICT機器の活用について、発達段階に応じた活用が進んだ。キャリア発達を踏まえ、学部間の系統性を整理した。 ・計画訪問等の実践の中で、授業改善に向けての課題として、より焦点を絞った研究が必要であることが明らかになった。	・「各学習活動の振り返り」に焦点を絞り、「みんなで・いつも」の授業改善への取り組みと、自立活動の指導の事例を整理・向上し、地域にも共有できるようにしていく必要がある。

4 中期的目標

1 児童生徒一人一人の個別の教育計画に沿った教育の推進   2 主体性を育む授業改善の実践と「自立と社会参加」に向けた「生きる力」の育成   3 児童生徒の健康と安全を守り、安心できる環境での指導の充実と心の育成   4 地域と連携し、顔の見える支援体制や信頼関係の構築

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
主体性を育む授業改善	①児童生徒の学びの充実のため、学習活動の振り返りから次につなげる「主体的な学び」の実現を目指した授業改善に取り組む。 ②一人一人の児童生徒に必要な自立活動の課題を設定し、専門家と連携した授業実践を通して自立活動全般に対する理解を深め、実践的指導力の向上を図る。 ③キャリア教育の視点を踏まえ、小学部・中学部・高等部の系統的な生きる力の育成を図る。 ④ICT機器の効果的活用と個々の児童生徒の実態や興味関心に即した教材教具の工夫を推進する。
安全で安心できる学校づくりと心の育成	⑤感染症対策を踏まえた教室内外の安全点検、ヒヤリハット事例の検証などにより、安全で安心できる学校づくりに努める。また、保護者・スクールバス乗務員等と連携し登下校時の安全確保に努める。 ⑥避難訓練、不審者対応訓練、緊急時対応訓練など各種訓練を実施し、対応スキルや危機管理意識の向上に努めるとともに、課題を基に内容の改善・充実に努め、対応マニュアル等の見直しや関係機関（警察・消防・教育機関・学校医等）との連携強化を継続する。 ⑦コンプライアンス推進委員会やいじめ防止対策会議などを中心に、いじめ・体罰・差別・虐待等がなく、自己肯定感の育成に努めるとともに、教職員一人一人の人権を意識したかかわりと支援の充実を図り、『チーム協和』としての学校づくりに努める。 ⑧児童生徒一人一人の身体の発達に応じた、健全な心と体の育成に向けた支援を行い、生活習慣の確立の徹底・改善に努め、体力づくりの推進を図る。
地域との連携の推進	⑨コミュニティ・スクール(学校運営協議会の導入)として、「地域とともにある学校」へ転換し、地域と一体となって特色ある学校づくりを目指す。 ⑩保護者同士のかかわりの充実を目指し、時代のニーズに応じた新しいPTA活動を推進する。 ⑪継続して「特別支援教育地域連携協議会」を設置し、センター的機能の充実を図り、地域における特別な支援を必要とする乳幼児・児童・生徒にかかわる相談支援を推進し、地域の関係機関との連携を密にした支援ネットワークづくりに努める。 ⑫交流及び共同学習を積極的に行うとともに、学校内外における児童生徒の作品発表等の積極的な地域参加をおして、本校の教育活動に関する情報発信・理解啓発に努める。また、校外での実習等を計画的に行うことで、より地域資源の活用に努め、効果的な事業所の開拓や連携を図る。